

【岩国医療圏】対応方針整理票

資料3-2

整理番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R6.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R6.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋((プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	対応方針の実施状況 (令和7年9月末時点) ※5				
				R6.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅療養 後方 支援	終末 期 医療		医療機関の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況	備 考 (実施予定時期など)
1	岩国	岩国中央病院	一般 22 22	急性 22 22	急性 22 22							・急性期機能を担う。	・透析患者の増加に伴う受け入れ態勢のさらなる充実を図る。また、透析患者が透析以外の病気、怪我などで入院が必要となった患者の受入を積極的に行う。 ・現在の急性期病床を引き続き担っていく。	急性 22 22	実施済		
2	岩国	岩国第一病院	療養 47 47	慢性 47 47	慢性 47 47							・慢性期機能を担う。	・岩国地域において急性期疾患の対応はほとんど岩国医療センターが担っているが、現状は手一杯であり、その穴埋めを療養病床の病院が担っている(高齢者の急性期、亜急性期治療)。	慢性 47 47	実施済		
3	岩国	周防病院	療養 120 120	慢性 120 120	慢性 120 120							・慢性期機能を担う。	・地域医療等体制の継続。	慢性 120 120	実施済		
4	岩国	いしい記念病院	療養 60 60	慢性 60 60	慢性 60 60							・慢性期機能を担う。 ・精神科を中心とし、内科療養病床、認知症治療病床、精神療養病床、精神一般病床で構成され、認知症患者センター機能も有している。	・今後においても地域或いは圏域における慢性期医療及び精神科医療についての機能は継続する。	慢性 60 60	実施済		
5	岩国	玖珂中央病院	療養 148 148	慢性 148 148	慢性 148 148							・慢性期機能を担う。	・リハビリテーションをさらに充実させ、従来の医療療養体制は維持しつつ、在宅復帰が可能な回復期機能に取組む。 ・慢性期機能を担う病院として、医療圏の医療連携をさらに充実させると共に、病院の機能を充実させる。	慢性 148 148	実施済		
6	岩国	岩国市立美和病院	一般 52 52	急性 52 52	急性 45 45							・二次救急医療機関。がんの療養支援(胃、大腸、肺、子宮、肝臓)、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患及び糖尿病並びに救急医療、へき地医療並びに在宅医療。 ・総合病院と連携をとり、高度医療を要する患者を紹介するとともに急性期治療終了後の患者や近隣の開業医からの紹介を受け入れる。 ・町内の特別養護老人ホームや福祉施設の協力病院として嘱託診療を行っている。また、訪問看護・訪問診療を行い、それに伴いケアマネージャー等と定期的な会議をもち、情報交換や連携の強化を図っている。	・美和病院は急性期・回復期・在宅医療を担っており、救急医療体制を維持すると同時に、近隣の介護施設との連携を維持・強化し、初期診療から慢性期診療まで幅広く患者の受け入れを進める。 ・また、錦中央病院の有床診療所化に伴い、美和病院が玖北地域唯一の病院となるため、これまで錦中央病院が担ってきた「糖尿病」等の生活習慣病の治療、「がん」の療養支援、「循環器疾患」の初期診療、「救急医療」を維持・強化すると共に、新病院移行に伴い、リハビリの強化、在宅復帰の支援にも注力することで、玖北地域の中核病院としての役割を果たしていく。	急性 回復 45 29 16	実施済	R7.7	
7	岩国	山口平成病院	療養 150 150	回復 150 慢性 46 104	回復 140 慢性 48 92	回リハ 46 46					○	・回復期機能と慢性期機能を担うが、回復期が中心。	・高度急性期治療後の亜急性期機能の提供体制。 ・リハビリテーションを中心に早期在宅復帰を目指した回復期機能。 ・岩国医療センターのみでは対応しきれない、軽症な急性疾患患者の受入対応。	回復 慢性 140 48 92	実施済	R7.3	
8	岩国	藤政病院	一般 40 40	慢性 40 40	慢性 40 40							・救急車搬入の急性期から、長期入院を必要とする慢性期まで、急性期、回復期、慢性期の各入院患者が混在。	・急性期、回復期、慢性期、いずれの患者にも今後も対応せざるを得ない。	慢性 40 40	実施済		
9	岩国	岩国市医療センター医師会病院	一般 181 181	急性 181 回復 38 143	急性 181 回復 38 143	回リハ 143 50 地ケア 93	○	○	○			・急性期から回復期の入院医療を担っている。 ・整形外科手術を中心とした内科疾患患者の受入、リハビリの提供、急性期治療後の患者の受入、在宅療養中の患者の急変時の受入やレスパイト入院、人工透析が必要な患者の受入等多様な患者の受入を行っている。 ・腎臓内科、ペインクリニック内科等の専門外来や、発達障害児に対する療育も積極的に行っている。 ・緩和ケアを中心とした訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等の在宅医療・サービスを提供している。	・急性期医療では、整形外科の手術・内科系の急性期。 ・回復期医療では、他医療圏に流出している回復期の患者の受け皿として受入強化するとともに、自宅近くの病院で安心して療養・リハビリが行えるよう機能・連携強化を図る。また、ポストアキュート機能に加えて、在宅医療の後方病床としての機能を強化していく。 ・在宅療養中の患者の増悪時の受入やレスパイト入院の受入など「とどきき入院(ほぼ在宅)」を支援する体制を構築する。 ・訪問診療・訪問看護等の充実により在宅療養を支援する。	急性 回復 181 38 143	実施済		

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R6.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R6.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋（（プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理） ※4	対応方針の実施状況 (令和7年9月末時点) ※5							
				R6.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救 急 医 療 施 設	在 宅 療 養 支 援	在宅 療 養 後 方 支 援	終 末 期 医 療		医療機関の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況		備 考 (実施予定時期など)		
10	岩国	国立病院機構 岩国医療セン ター	一般 484 484	高度 急性 慢性 484 266 194 24	高度 急性 慢性 484 266 194 24		○	◎ ○				・救急医療は、本圏域及び隣接する柳井圏域において、当院が唯一の三次救急病院であり、県外の広島県大竹市、島根県西部の患者も積極的に受け入れている。また本圏域における二次救急医療は当院が主体となっており、地域における当院の救急医療は不可欠である。 ・高度急性期・急性期医療は、循環器系、呼吸器系、消化器系、周産期、小児、損傷等、血液内科、救急科等、全32診療科体制で幅広い医療機能を担っている。 ・がんについては、拠点病院として手術・化学療法・放射線治療を積極的に実施している。	・三次・二次救急医療は、更なる充実を図るとともに、本圏域及び隣接する柳井圏域を中心に、引続き積極的に展開する。 ・近隣主要病院が医師不足により、急性期医療を担うことが困難なため、当院は高度急性期・急性期医療を更に充実させる。 ・がん医療については、拠点病院として手術・化学療法・放射線治療の更なる充実を図る。 ・当院と後方支援病院との役割分担を明確化すると共に、地域連携の充実を加速させ、早期退院促進と平均在院日数の短縮を図る。 ・歯科サポート連携を強化し、術後の早期退院、誤嚥性肺炎の防止、動脈硬化の予防・軽減に積極的に取り組む。 ・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に活用するため、休棟中であった病床数51床のうち44床を、現状の運用に併せて削減を行い、うち7床は、当院の担うべき役割である高度急性期・急性期の病床として、再開する。 ・とりわけ、個室病床として感染管理の強化、重症化リスクのある小児の個室管理が必要な患者の対応として、再開する病床のうち4床は高度急性期病床として運用する。	高度 急性 慢性 484 266 194 24	実施済					
11	岩国	岩国病院	一般 療養 60 41 19	回復 慢性 60 41 19	回復 41 41							・急性期機能と慢性期機能を担う。	・地域の急性期病院（医療センター、医師会病院）における加療を経て、自宅に戻るまでの対応を中心とした医療を提供していく。 ・医療の提供において、リハビリ機能や栄養面でのケアを付加価値として強化することで、地域の要請に応えたい。 ・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に活用するため、慢性期病床を削減するとともに、急性期病床41床全てを不足する回復期病床（地域包括ケア病床）へ転換する。 ・なお、産科病棟については、スタッフの確保が難しくなったため、令和6年6月末をもって分娩入院を停止するが、産婦人科の外来診療は7月以降も継続し、婦人科業務を中心に、妊娠判定、妊産婦検診、また必要に応じて妊産婦のケアを行っていくうえで、他の医療機関とも連携して取り組んでいく。	回復 41 41	実施済					
12	岩国	岩国みなみ病院	一般 60 60	急性 60 60	急性 60 60							・急性期機能と回復期機能を担う。	・軽症から中等症の患者受入れ病院としての役割・機能を果たすため、休棟中だった病床について、看護師の確保により、令和5年10月から28床を再稼働している。 ・将来の医療需要を見据えるとともに、医師・看護師等の限られた医療資源を最大限効率的に活用するため、急性期病床数を15床減らし、45床へ見直すとともに、今後、一般病床での実績を踏まえて一部回復期機能病床への転換も検討する。	急性 45 45	実施済		R7.3			
13	岩国	みどり病院	療養 120 120	慢性 120 120	慢性 120 120							・慢性期機能を担う。	・看取りケア、ターミナルケアを支える医療の提供。 ・近隣の医療機関との連携を潤滑に図っていく。	慢性 120 120	実施済					
14	岩国	錦病院	一般 40 40	急性 40 40	急性 40 40							・急性期機能を担う。	・訪問看護、居宅介護支援事業、訪問介護事業を併設し、地域に根差した身近なかかりつけ医療機関として、外科、消化器外科、内科等がん治療に至るまで幅広く総合的に対応し、岩国市内にける急性期医療機関としての役割を担っていく。	急性 40 40	実施済					
病院小計			一般 療養 1,584 920 664	高度 急性 回復 慢性 1,584 266 406 230 682	高度 急性 回復 慢性 1,548 266 399 232 651	189 回リハ 地ケア 96 93	2	2	2	0	0			高度 急性 回復 慢性 1,533 266 368 248 651	実施 済	14	未 実施	0	実施 率	100.0%

整理 番号	区域	医療機関名	許可病床数 (精神・感染症・結核除く) R6.7.1 ※1	病床機能報告による 機能別病床数 ※1		施設基準の 状況 R6.7.1 ※2	認定・届け出等 ※3					「公的医療機関等2025プラン」又は「医療機関2025プラン」の記載内容のうち、「自施設の現状」「今後の方針」「4機能ごとの病床のあり方について」から集約・抜粋（(プラン未作成の有床診療所については、病床機能報告の報告内容から整理) ※4	対応方針の実施状況 (令和7年9月末時点) ※5									
				R6.7.1	R7.7.1		地域 医療 支援	救急 医療 施設	在宅 療養 支援	在宅 療養 後方 支援	終 末期 医療		医療機関の特徴・役割	今後の方針	機能別病床 数(2025)	実施状況	備 考 (実施予定時期など)					
15	岩国	八木クリニック	一般 3 3	回復 3 3	回復 3 3							・回復期機能を担う。	・数年病床稼働実績はないが、産婦人科診療所として母体保護法に基づき入院施設を有することが必要であるため、病床を維持している。 ・令和5年3月、経口妊娠中絶薬が承認される。この使用には3日間の入院が必要であり、それに対応できるようにしておきたい。	回復 3 3	実施済							
16	岩国	川田クリニック	一般 9 9	休棟 9 9	休棟 9 9							・休床中。	・休棟予定。	休棟 9 9	実施済							
17	岩国	マサキ外科肛門科	一般 8 8	急性 8 8	急性 3 3						○	・肛門疾患の入院手術治療を行う急性期機能を担っている。	・他医療機関との役割分担・相互連携や将来の医療需要等を踏まえ適正規模の病床に見直し、当院が地域での役割として求められている肛門疾患の入院手術について、継続して実施していく。	急性 3 3	実施済	R7.3						
18	岩国	岩本医院	一般 2 2	回復 2 2	回復 2 2						○	・回復期機能を担う。	・特別養護老人ホームや老人保健施設入所者の容態悪化時の受け入れ。	回復 2 2	実施済							
19	岩国	はるなウィメンズクリニック	一般 19 19	急性 19 19	急性 19 19							・主に分娩を取り扱う。	・正常分娩の取り扱い。 ・婦人科検診(子宮癌検診、乳癌検診)の実施および啓蒙活動。	急性 19 19	実施済							
20	岩国	岩国市立錦中央医院	一般 53 53	急性 53 53	急性 53 53						○	・在宅医療や回復期医療の拠点としての役割・機能を担う。	・玖北地域において限られたスタッフでの持続可能な医療提供体制の構築のため、市立医療機関での役割の明確化を行い、当院は、在宅医療を重視した医療への転換を図る。 ・在宅医療を推進することにより、病院のベッドから自宅のベッドに移行し、在宅医療から看取りまで行えるようサポートする。	回復 19 19	実施済	R7.3						
診療所小計				高度急性回復慢性休棟 94 94 94 94 94	80 75 5 0 0		0	0	1	0	1	①必要病床数 ・合計1,501 ・高度 131 ・急性 419 ・回復 446 ・慢性 505		②2025プラン 1,579 266 390 272 651	②-① 78 135 ▲29 ▲174 146	高度急性回復慢性 46 22 24 0	実施済	5	未実施	0	実施率	100.0%
医療圏合計			1,678 一般 1,016 療養 664	1,678 高度急性回復慢性休棟 266 486 235 682 9	1,628 266 474 237 651	189 96 93	2	2	3	0	1			1,579 266 390 272 651	高度急性回復慢性	実施済	19	未実施	0	実施率	100.0%	

※1: 令和6年度病床機能報告における病床数。

※2: 中国四国厚生局「届出受理医療機関名簿(届出項目別)」において、【地ケア: 地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料】、【回リハ: 回復期リハビリテーション病棟入院料】を届け出ている病床数。

※3: 【地域医療支援: 地域医療支援病院の承認を受けた病院】、【救急医療施設: 二次救急医療施設の認定を受けた病院は「○」、三次救急医療施設の認定を受けた病院は「◎」】、【在宅医療支援: 在宅医療支援病院又は在宅医療支援診療所の届出のある医療機関】、【在宅医療後方支援: 在宅医療後方支援病院の届出のある病院】、【終末期医療: 令和6年度病床機能報告における「有床診療所の病床の役割」の項目のうち、「終末期医療」を選択している有床診療所】

※4: 「機能別病床数(2025)」については、令和7年9月までに調整会議において合意された2025プランの内容を反映している。なお、今回、変更を協議する場合は、変更内容を反映している。また、有床診療所については、「病床機能報告による病床数」の「R7.7.1」の機能別病床数を反映している。

※5: 対応方針の実施状況は令和6年度病床機能報告等で確認して記載し、未実施の場合は実施予定時期を記載。例: 令和7年9月頃。また、有床診療所で2025プランの機能別病床数が休棟又は廃止の場合については、実施済に区分している。